



謹賀新年

令和に思いを込める「俺が危い」

公益社団法人 栃木県柔道整復師会 会長 片岡 祥二



令和になり初めての正月を迎えた。

一年の計は元旦にあり…新年を迎えるたびに、心新たに

目標を立て頑張ろうと思う方々も多いことだろう。

大田原市(旧黒羽町)に雲巖寺という禅寺がある。

一昨年、女優の吉永小百合さんが訪れ「大人の休日倶楽部」のCM撮影の舞台になった寺院として脚光を浴び、最近では遠方から観光バスが訪れるほどの賑わいをみせている。

この雲巖寺は、南宋から日本に来た「無学祖元禅師」こと仏光国師が開山した、鎌倉の円覚寺と深いつながりがある寺院である。無学祖元禅師は多くの弟子を育てたが、その中の一人「高峰顕日禅師」こと仏国国師が開山したのが雲巖寺である。

私も過去に参詣したことがあったが、とある書物に「雲巖寺の近くには珍しい交通標識がある」という記事を目にし、物珍しさに誘われ再度訪れてみた。

「俺が危い」と赤い字で書かれたそれは、雲巖寺のバス停に無造作に立てられていた。



交通安全のために立てられているというが、実はこれは雲巖寺の師家を長く勤めた第58代住職植木憲道老師の96歳の時の書だそうである。

もちろん、車を運転するときは誰もが細心の注意を払っていると思うが、大田原市内に点在するこの標識、どうもこの言葉の意味はそれだけではないらしい。

人間誰しも、年齢を重ね財産や地位や名誉などが備わってくると「慢心」という厄介な代物がついて回る。私利私欲に取りつかれると、それが憎しみや妬みの感情にまで増幅し、それを払いのけるのは容易ではない。

「俺が危い」お互いの心の危うさを自覚して少しずつでも精進したいものである。これがひいては業界の発展につながると信じていたい。

1月号 CONTENTS

Vol.328 とらのき

年頭感	1
合同部会・懇親会	2
介護保険部会／整骨みらい塾	3
骨密度測定と健康相談／芳賀日赤ふれあいデー	4
接骨医学会／なんちゃってダンディー	5

My Box／新学術部シリーズ	6
コラム	7
保険部からのお願い／支部だより	8
ニューフェイス	9
行事予定／お知らせ／川柳／編集後記他	10

令和元年度 合同部会・懇親会 宇都宮グランドホテル

ちょいとあの世に行く前に…相続税の話 保険部は国保担当者あつめ講演

去る 12 月 7 日、宇都宮グランドホテルにおいて当会役員の今年の総まとめとなる合同部会が開催された。

片岡会長のあいさつから始まり各部長、役員が順次今年度の事業経過を述べた。

保険部からは、各市町の国保担当者を対象にした「柔道整復療養費支給の適正化に向けて」という講演会において田代副会長が講師をつとめ、医科との併給や作為的な請求などの療養費の問題点と当会や施術所の取り組みを解説し、各参加者から好意的な感想を得られたと報告があった。

会務運営については、ここ数年続いている定率会費の減少は止まっておらず、苦しい状況に変わりはない。昨年は前年を上回る月もあったが、県内に広く被害をもたらした台風 19 号の影響もあり前年割れが確実だ。対策として、経理部は毎年経費節減を実行し結果を出している。特に今年度からは執行部をはじめ役員の報酬をも削減している。

また、会員数の減少にも新入会員の獲得が急務であるが、現状は上手くいっているとはいえない。会長からは「会員の高齢化」という言葉もあった。新規開設者に当会选择されるには他団体との差別化も必要だろう。

ぜひとも会とタイアップした差別化アイテムを活用したり、増患講習会に参加していただければ回復の光も見えてくるはずだ。



特別講演では当会顧問の小林恒夫税理士が「相続税・贈与税の基礎知識と節税」について解説。私たちにはあまりなじみがなく、近寄りがたい問題だが「小さな対策で大きな節税」ができるヒントをいただいた。

当会ゆかりの宝と福の神が舌戦？！

続いて行われた合同懇親会では、まず当会顧問の小林幹夫県議から「少子高齢化社会を迎え、健康保険をいかに維持するのかがわれわれの課題。医療費適正化計画、言い換えれば削減だが、それを医師会、柔整師会とともに考えたい。これからもつながりを密にして良好な関係を築けるよう努力する」とあいさつがあった。これを受け、司会の石井介護保険部長は「心の底から頼りにしている」と言葉を贈った。議員生活 30 年「県議会で自分ほど医療関係に携わる議員はいない」と自負する小林県議にはこれからもご助力をお願いしたい。

また、元日本医師会副会長の宝住与一先生は「タバコなんかやめたってしょうがない。塩分？減らすことない。それで生きている高齢者はたくさんいる。自覚症状がないのに医者にかかる必要なんかない。必要ないのにかかるから医療費が増えるんだ」と持論を展開。相変わらずの“宝住節”が会場の笑いを誘った。

それに対して当会顧問の福嶋稔先生は、乾杯のあいさつで「宝住先生はあのように言うが、やはり健康寿命を延ばすことが医療費削減に役立つ」と返し、会場を沸かせた。続けて「それには運動をして基礎代謝エネルギー、要は“火力”を減らさないようにすることが大切。この火力は筋肉に 30% あるから筋トレはするべき」と真つ当な意見を述べた。

宝船に乗ってやってくるのは福の神。われわれも自



日赤の入野事務局長（左）

助努力を続けていくことはもちろんだが、いろいろな方々からの助力を謹んで受け、今年こそは福が無い降る年にしたい。

なお、今年度のチャリティコンペの収益金は台風 19 号の義援金

として日本赤十字社栃木支部に寄付させていただいた。

広報部

笹沼先生との勉強会のお知らせ

日時 令和 2 年 1 月 30 日（木）20：30～

場所 当会館 2 階大会議室

内容 野球検診の現状・エコー検査実技講習

詳しくは送付済のご案内をご覧ください。

介護予防と柔整師

11月27日、帝京大学医療技術学部柔道整復学科講師の阿部弘之先生による、介護予防と柔整師の役割を考える講演が当会館で行われた。

「2025年問題」では、団塊の世代が全員75歳以上の後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、6人に1人が75歳以上になると見込まれている。



さらに、2042年には65歳以上の高齢者人口がピークとなり、団塊ジュニア世代が65歳を迎えることになる。

このころ、首都圏では地方から吸い寄せてきた人口が一斉に高齢化を迎え、医療・介護資源の不足が深刻化すると見込まれている。一方で、地方では高齢者の絶対数は横ばいか減少していくとみられていて、このころから人口減少が顕著になるために、首都圏とは逆に医療・介護産業が衰退していく恐れがある。

狭義にこの業界をみれば、自民党政務調査会から出された総合政策集2016 Jファイルには「地域包括ケアシステムにおける柔道整復師の役割を確立させる」と明記されており、それに対応すべく準備が進められている。

実際に柔道整復養成校においては、平成30年度から専門分野として①高齢者の生理学的特徴・変化②社会保障制度③高齢者の外傷予防が組み込まれた新しいカリキュラムが導入されている。これは、要支援・要介護1の増加が著しく、その大半が足腰の運動器に問題を抱えているという現状に、国が介護予防に注力することに考えを転換したことを踏まえてのことだ。

いま、阿部先生は帝京大学において「栃木県における柔道整復師の予防介護・日常生活支援総合事業参入に関する訪問面接調査について」をテーマに、柔整師の参入に前向きな自治体と門前払いの自治体の違いはどこにあるのかを明らかにするため、県内全市町の担当部署に対して網羅的に調査を行い、学問的な論文作成に取り組んでいるようだ。

現在、介護予防参入に関しては足踏み状態ではあるが、今後このような調査により阻害要因がわかれば当会でも対策が打てるのではないだろうか。

これは余談だが「介護予防で果たして医療費は下がるのか？」の問いに「健康寿命が延びて、かかりつけ医に通う回数が増えるだけ」という否定的な意見もあるんだとか。

広報部 藤田好美

整骨みらい塾

接遇極めて 接骨院グ〜

11月10日、栃木県で唯一の日整公認私的研究会「整骨みらい塾」の講演会が当会館で開かれ、26人が参加した。

第1講演

講師 整骨みらい塾 野澤哲男会員

「先生の患者になりたい」

～患者に愛されるための接遇と患者の心理～



普段から患者さんとのコミュニケーションを図る際の手法として、視線・姿勢・うなずき・相づち・口調に気を付け、相手が答えやすい開かれた質問と、判断しやすく主導権を握って迅速に対応できる閉ざされた質問を、臨機応変に使い分けるマイクロカウンセリングの技法を用いて、信頼度向上に役立てているという。患者心理を細かく分析した非常に興味深い内容だった。

いつもニコニコして温和な野澤会員が、講演中は更に増して見える印象だった。多くのスライド資料を準備し、用意周到な狙いどおりの笑いも起き、終始ご満悦に見えたのは私だけではないはずだ。話すことや伝えることがよほど好きなのだろう。聞き手に向けた配慮は愛情さえ感じた。

第2講演

講師 宇都宮セントラルクリニック
放射線技師長 齋藤順一先生

「交通事故・症例獲得事例セミナー」

患者獲得について施術成績・疾患に対する知識・患者満足度向上・Webを使った集患方法が必要と話された。その中でも、接遇や待機時間の重要性和XP・CTに限らずMRI検査の必要性を多くの事例を基に強く訴えた。特にMRI検査の画像の見方や注意点の内容説明については、参加者の関心が集まり、患者のための医接連携は必須なものであると強く再認識することとなった。



放射線技師の専門である可視化による最新で高解析な検査と、柔道整復師の専門である徒手検査・整復・固定・後療などの卓越した手技による融合が、今後の臨床と患者満足度の向上に必要な不可欠なものと感じた講演であった。

広報部 古内秀直

この日のために健康努力

当会パンフが地域住民の健康維持に役

昨年 11 月 17 日、宇都宮市西生涯学習センターにて、近隣の自治体や高齢者サークルの方々、そして作新学院高校と陽西中学校の生徒さんが協力し盛大な文化祭が行われた。

当会は毎年恒例である「骨密度測定と健康相談」を実施した。10 時開始の予定であったが、9 時を過ぎると開始を待ちきれない人々がブースに訪れ始めた。

この日は学術部員 2 人が対応にあたったが、大盛況を極め、骨密度測定はもちろんのこと野澤副部長の健康相談待ちは行列となった。

「この日のために運動を続けてきた」「骨密度アップのために太陽を浴びよう意識した」など、日頃から健康意識の高い方もいて、そういった方の結果はやはり良好であった。



また、当会発行のパンフレットを毎年ご持参いただいている方もいた。紙面には、5 回分の骨密度測定結果が記録できるページがあり、毎年訪れてくれる方なら 5 年分の骨密度が記録できる。お役立ち情報も載せているため、活用してくれているのを見て嬉しく思った。

今回は 118 人の骨密度測定をしたが、訪れた多くが高齢者であった。毎年、骨密度測定を楽しみにしているという声もあり、健康に対する探求心も強く持たれていた。このような意識の高い高齢者の健康寿命を延ばすためにも、私たち柔道整復師の関わり合いは重要だ。私たちには健康寿命を延ばすための知識と技術があるからだ。

今回のイベントを通して、柔道整復師が健康維持に積極的に関わることの重要性を改めて認識し、今後のスキルアップにもつなげていきたいと思った。

学術部 鈴木勝仁

救世主降臨！

助っ人 倉持事業部長参上



11 月 16 日、真岡市の芳賀赤十字病院大講堂にて「芳賀日赤ふれあいデー」が開催され、片岡会長をはじめ芳賀支部会員らにより恒例の骨密度無料測定を行った。

旧病院から移転のため昨年は見送られ、2 年ぶりの開催となったわけだが、新しい病院になり勝手が違うのか病院関係者や外部団体、当会有志も手探りの状態からのスタートとなった。



会場となった大講堂だが、病院の 2 階エレベーター乗り場から奥まった、普段は利用者が立ち入らない場所にあり「今日の参加者は少ないな」と勝手に思っていたが、始まってみると思いのほか大勢の人が押し寄せた。

測定をしていると、暇な時間と行列ができる時間の波があり地味に忙しい。そんな押し寄せる波の最後尾を目で追っていくと「病院案内ツアー」なる看板があった。

そう、新しくなった芳賀赤十字病院を紹介するための見学ツアーのようなものが開催されていたのだ。しかも、正面玄関総合受付の横でツアー参加者を募り、ツアーが終わると必ず会場に連れてくるコースとなっているため、絶え間なく利用者が測定に来る。昼食を交代で済ませたいのだが、忙しくなりなかなか抜けられない。

そんな時、一人の救世主があらわれた。

「予備点検前にちょっと寄ってみた」と、にこやかな笑顔の倉持事業部長が参加表明したのだ。

倉持部長が健康相談を買って出てくれたため食事にありつけ、なおかつ全員の食事が終わるのを見届けると「じゃあ行くね」と颯爽と去って行った。

「完成された大人とはこんな人を用いるのだろう」と見送りながら後ろ姿を見ると、照明の関係が後光が差しているように見えた。

片岡会長・鈴木支部長・直江会員・宮崎会員・そして倉持事業部長、土曜日の診療を休診しての参加ありがとうございました。

広報部 植木大輔

接骨医学会

“学術部” 直江会員の大活躍劇



11月23日・24日の二日間にわたり、東京

有明医療大学にて第28回日本柔道整復接骨医学会学術大会が「スポーツと伝統医療ー東京2020オリンピック・パラリンピックに向けてー」をテーマに開催され、日本全国各地からたくさんの柔整師が集まった。

はじめに東京有明医療大学柔道整復科特任教授の福林徹先生による「スポーツ医学における外傷・障害のスポーツ復帰までの治療」が講演された。

壇上にはソフトバンクホークス監督の工藤公康氏と筑波大学の白木仁先生も上がり、工藤監督自身のケガから復帰までの体験談や監督業の中での選手コンディショニングなど貴重な話を聴くことができた。また、工藤監督の選手時代に、治療やコンディショニングに携わってきた白木先生の話も大変勉強になった。

日本を代表するトップアスリートであり、現役の名監督の話はとても分かりやすく的確で、会場の全員が集

中し聞き入っているのが感じられ、素晴らしい雰囲気であった。

全6会場で多くの発表があったが、すべてを聞くのは当然不可能でそのチョイスが難しかった。

その中でも外せない発表が一つ。わが栃木県柔道整復師会直江重人学術部員発表の「付設診療所における骨腫瘍の3症例～医接連携構築の重要性～」だ。

堂々とした発表でとても聞きやすく、内容も「医師との連携」ということで、他の発表とは一線を画したものとなり、多少の読み間違いがあったものの大きな反響を受けたと感じた。

また、座長から「他府県では医接連携はとても難しく、また付設診療所を持つ会はないに等しい。医師との連携をうまくするコツは？」との質問に「大きな声では言えませんが…接待っす！」と回答し、会場内大爆笑。

見事な名回答？迷回答？に今大会で一番の拍手喝采を受けたのは直江会員だと断言する。

そのほか、様々な内容の発表がなされ、モンゴル国内での柔道整復の現状などもあり、柔道整復が世界でも認められていることも確認できた。

会場に入りきれず、立ち見や会場外から傍聴した方もあり大変盛況な大会となった。

今後も柔道整復が広く認知され、偏向的な報道に負けず、それぞれが地域住民の健康維持、健康増進のため邁進されることを期待する。

広報部 丸山佳洋



11月29日金曜の夜に、当会顧問の福嶋稔先生からお誘いがあり、またまた栃木支部の3人組で「中本マリ音楽活動50周年記念 Special Live」に行っていました。

ハスキーな声で、とても心に沁みわたる素晴らしいボーカルでした。スローテンポからのりのリアップテンポなJAZZナンバー、そしてボサノバなど様々な音楽を歌いこなし、若い人にはまねできない“魂が揺さぶられる”そんな感覚のステージでした。そして、福嶋先生の叩くドラムの熱い振動にお腹の肉までも揺さ

ぶられました。

「Over the Rainbow」は圧巻で、胸が熱くなり聞き入ってしまいます。アンコール？いやいやご自分からもう少し歌いたいと、私も大好きな「On the Sunny Side of the Street」「Tennessee Waltz」と続けて披露してくれました。「英語で歌って」と催促され、みんなで合唱できたこともなかなかいい気持ちにさせてもらいました。

秋の夜長に、グラスを傾けながらこんな夜もたまにはいいものですね。またこのようなLiveがあると思いますので、ぜひ奥様やご主人、恋人、そして内緒の人…などを誘って出かけてみてはいかがでしょうか。

ストマックドラム丸山

2019 11/29(金)
中本マリ音楽活動50周年記念
Special Live in Cafe 245

Vocal 中本マリ
Piano 大田純一郎
Bass 末本康志
Drums 福嶋稔

18:00 Open 19:00～1セット
チャージ: ¥4,000 (+ドリンク以上オーダーください)
場所: Cafe 245 (駐車場は建物南側に有り)
栃木県下野県厚生会ビル1F TEL: 0285-5308-7001 (内線)

My Box

支部リレー投稿
第189走者 宇都宮支部 曾村岳史

被災から得たもの

「おい、どこにいるんだ？やるぞ！」

10月14日、被災後2日目の朝8時ごろ、1本の電話で起こされた。その声の主は、宇都宮支部の小椋支部長だった。

12日に関東を襲った台風19号の影響で施術所が床上浸水の被害にあった。翌朝、水が引いた院内に入るときは呆然とした。何から手を付けていいのかわからない状態。一度自宅に戻った。自宅は無傷、ごく日常の姿。少し冷静になれた。

グループLINEで、被災したことを投稿したら、すぐに反応してくれたのが同じ支部役員の村上会員。ありがたかった。妻と子供を連れて片付け道具の買い出しを済ませ、院に戻ったとき、そこには同じく支部役員の川野辺会員が来てくれていた。

そこから、支援の連鎖が始まった。関係しているサッカーチームの選手とスタッフが、ホースや雑巾を持って来てくれた。夕方から練習試合があるにもかかわらず、ギリギリまで手伝ってくれた。

この日の僕は、正直「何もしてない」と言っても過言ではなく、懸命に泥をさらってくれているみんなを後ろから見ていただけだった。なんと作業1日目で、院内の

半分が綺麗になった。

そして、あの“被災後2日目の朝”が来る。

前日にスタッフにも声を掛け、10時から始める予定だったこともあり、ゆっくりしていた矢先に鳴った電話。慌てて準備をして施術所に向かうと、すでに小椋支部長と星会員が待っていた。「もう5時くらいからやっているかと思った」と。

そこから、村上会員、五宝会員をはじめ、あれよあれよと10人以上の方が来てくれた。

2日目の僕も何もしていない。陣頭指揮だと言えば聞こえはいいが、ほとんど後ろで見ているだけに等しかった。夕方には、全体の90%の片付けが済み、あとは細かい物の整理をすればいいくらいにまで片付いていた。その後も、手伝いに来てくれた方はいたものの、逆にやることがないので、帰ってもらったほどだ。そこから2日かけて、床を乾かし消毒をして16日から再開できた。

この2日間で、周りにいかに支えられているのかを強く実感させられた。「感謝」こんな2文字では、到底表しきれない気持ちと、これ以上ない「こんなにも支えられているんだ」という安心感・心強さ。困ったときはお互い様だと言っても、そこに感じる人の優しさ・ぬくもりに、本当に助けられた時間でした。この場を借りて、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



今回は栃木支部です。お楽しみに。

新 Innovative Academic Department Series 学術部シリーズ



Vol.147 外傷以外の肩、上腕の変形、腫脹

3. 亜急性、慢性<知覚異常なし>

(1) 先天異常

●肩甲骨高位

【先天性肩甲骨高位症 (Sprengel 変形)】

片側または両側の肩甲骨が正常より高い位置にあるもの。肩の運動制限を認めることが多く、またしばしば脊椎、肋骨、上肢などに奇形を伴っている。

【クリッペル・ファイル症候群】

頸椎のいずれか2つが先天的に癒合している。骨性斜頸や先天性肩甲骨高位症、先天性側弯などの異常を伴うことがある。

●先天性鎖骨形成不全症

鎖骨の全欠損あるいは部分欠損がある。機能障害は少なく生命予後も良好である。

●先天性肩関節脱臼

肩関節の動揺性が大きく、その結果、関節包が弛緩している状態で骨頭が関節窩から脱臼・亜脱臼を起こす。

(2) 慢性腫脹

① X線所見なし

●滑液包炎

慢性的な滑液包炎は、外傷や過剰な摩擦の繰り返しによって起こることが多く、滑液包は肥厚している。

【肩峰下・三角筋下滑液包炎】

反復運動に伴い、腱板と烏口肩峰アーチ間の摩擦や衝突が増すと起こる。肩腱板の腱炎で起こる可能性が高い。

昨年 10 月 31 日未明、沖縄の「世界遺産」首里城跡で火災が発生、正殿など主要な建物が全焼し、琉球王朝時代から伝わる貴重な多くの文化財が焼失した。

琉球王国といえば、日本と中国の文化を基にした独自の文化を発展させてきたが、その結晶が首里城だともいえる。

政府は 30 年前、日本復帰 20 年の記念事業として、先の戦争で跡形もなく消滅した首里城を復元した。わずかに残った戦前の写真や図面を基に、中国や東南アジアを視察し、地道な作業で戦前の姿を解明していった。中でも、屋根に乗る赤瓦は当時の写真が白黒しかなかったため、作業は難航したそうだ。



群雄割拠の戦国時代において、城郭は敵に攻め込まれないように、堅牢無比な建物の周りを堀や櫓で備えていた。また、権威を示すものとして城の規模を競っていた。

江戸時代に入り平和な時代になると、城は美しさや格式が重視され「一国一城令」のもと、城主の住居や迎賓館として生まれ変わった。

徳川の世が終わり明治になると、城は反政府勢力の軍事拠点となり得るとして「廃城令」が出され、明治政府によってほとんどの城が徹底的に破壊された。

しかし、日本人にとって「城」とは象徴であり、心のよりどころであることは歴史が証明している。戊辰戦争において、会津の白虎隊は城が焼け落ちるのを見て意気消沈、戦意喪失し自害している。

第二次世界大戦においてアメリカ軍は、日本国民の戦意を損なうために城を狙い撃ちしたが、奇跡的に焼け残った姫路城を見て姫路市民は歓喜したという。



消失した首里城は、沖縄戦が背景にあり県民の中には「国から与えられたもの」「偽りの首里城」という意識もあった。それが 30 年かけ県民に定着していき、沖縄の象徴となったという経緯がある。

今回の首里城火災のニュースでは那覇市民が涙する映像が何度も流れた、と同時に必ず復元するという強い意志が感じられた。

ところで、日本 100 名城というスタンプラリーがある。北海道から沖縄までの 100 城を巡るというものだが、すべての城に登城し、100 個のスタンプを手に入れた人数は昨年 8 月現在「3,334」というから驚きだ。やはり日本人と城は切っても切れない関係なのである。

不識院後光守

●滑膜炎

【色素性絨毛結節性滑膜炎】

関節の滑膜組織が、限局性または、びまん性に異常増殖するまれな良性疾患で、滑膜由来の良性腫瘍であり、繰り返す関節内の出血による関節腫脹が特徴である。

症状は、限局性のもの（結節型）では関節の引っかかり感のみのことが多いが、びまん性（びまん型）の場合には関節血腫を繰り返し、痛みを伴う。関節血腫を繰り返す場合には関節破壊へと進行する。

●関節炎

【初期化膿性関節炎】

関節内に生じた感染症を指し、痛みや腫れなどの症状が関節に生じ、数日の間に関節の破壊を引き起こし、永続的な機能障害を残すことがある。原因菌は、黄色ブドウ球菌が一番多い。

●軟部腫瘍

正常な細胞と形や性質などが異なる細胞が過剰に増えてできたかたまりのこと。脂肪組織、筋組織、線維性組織、末梢神経、血管などあらゆる組織から発生する腫瘍の総称。

軟部腫瘍には、良性軟部腫瘍から悪性軟部腫瘍まで多種多様な腫瘍が含まれている。

【良性軟部腫瘍】

腫瘍の成長スピードが穏やかで転移はなく、生命を脅かすことがほとんどないもの。

脂肪腫、筋肉血腫、線維腫などがある。

【悪性軟部腫瘍】

転移があり生命にかかわる危険性がある。腫瘍の成長スピードが速いことが多い。

脂肪内肉腫、線維肉腫、横紋筋肉腫、悪性神経腫などがある。

学術部 大芦昌代

保険部からのお願い



1. 当会で行っている予備点検・労災審査会と公的審査会の際に、確認事項などに対してお問い合わせを行う場合がありますのでご協力をお願いします。確認が取れない場合には、やむを得ず返戻となる場合もありますのでご理解ください。

“とちのき”行事予定欄に点検の日程・時間が掲載されていますので参考にしてください。

2. 健康保険組合・協会けんぽ・共済組合などの被保険者（本人）の場合、負傷原因欄に「私用または私用時間」であることが確認できるような原因記載をお願いします。

下記のような記載の場合、業務上の災害と判断される場合がありますのでご注意ください。

例1：駐車場で荷物を下ろす際に腰部を捻り負傷。

例2：階段で足を滑らせ右足首を捻り負傷。

上記はいずれも『どこで』『どうして』『どうなった』の記載はありますが、自宅なのか勤務先なのかなどの記載がないと、労災の疑いをもたれてしまいます。

3. 文字や金額の訂正の際には二重線で抹消し、近傍に正しい文字・数字を書き込んでください。なお、訂正印は不要です。

インク消し・修正液などは使用不可となります。

また、二重線が乱雑なため判読が困難となる事例が報告されていますので、抹消文言が判読できるような線引きをお願いいたします。

4. 申請書の提出は健康保険・労災保険ともに施術翌月に毎月提出をお願いします。

労災などで「書類が整わない」などの理由で、数か月分をまとめて提出する場合には、簡便な理由書を添付してください。

例1：会社証明欄の記載不備のため、書類の提出が遅延。

例2：本人委任欄の印鑑が不備のため提出遅延。

5. 交通事故の施術で健保を使う場合「第三者行為による傷病届」が必要となりますが、その申請書の「右肩部」を1cm程度三角形に赤染めしてください。

自損事故や10割過失の加害者の場合、第三者行為にはあたりませんのでその必要はありません。

3部位同時施術の場合には「自損事故であることや

10割過失の加害者としての交通事故」であることを明記し、それぞれの部位に対して「どこで」「どうして」「どうなった」という負傷原因を記載してください。

6. 児童・生徒などの学校管理下におけるケガなどで「日本スポーツ振興センター災害共済給付金」制度を利用する場合に、「公益社団法人会員であることを明記するか、『施術の内容欄』の詳細を記載するように」との理由で「医療等の状況」を返戻される事例がありました。

令和元年12月1日付で、公益社団法人日本柔道整復師会と独立行政法人日本スポーツ振興センターとの間で協定書の更新があり、「法人会員の記載は必要ありません」との回答をいただきましたので、会員各位においては従前どおり内容を簡略化しての取り扱いをお願いします。

また、各県・市・町のこども医療費助成制度を利用し、窓口での負担金を徴収しない場合でも当該給付金（1割分）を受けられます。様式は当会HPからダウンロードできます。

支 部 だ よ り

栃木支部

おおやクリニックをはじめ 6人の会員が被災

11月20日、サンルート栃木にて支部会が開催された。恒例の当会協力医療機関である、おおやクリニック大家準院長の勉強会が予定されていたが、台風19号により被災され、事後処理のため今回は残念ながら中止となった。

当支部にも被災された会員がいたが、無事出席することができ、元気な姿を見て他の会員もみな安堵した。

鳩山支部長からは、被災状況の報告と被災後に始めた施術ボランティア派遣も11月20日をもって終了したことが伝えられた。

被災された6人の会員が早く普段どおりの生活へ戻れるよう、支部としてもできる限り協力していきたい。

通信員 丸山佳洋



宇都宮支部

繋げる、広がる、人と人 9/21~22

北海道から熊本まで、エントリーした35都道府県で開催される、認知症の「人」を理解して、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指してタスキリレーをする全国的なイベント「RUN 伴（ランとも）」。

栃木県でも18の市町で開催したが、その中の上三川でエリア長を務めたのが宇都宮支部の見當敦会員だ。

参加のきっかけは、介護福祉士の奥様が参加していた「Tochigi未来カフェ」というコミュニティ（勉強会）。この未来カフェが最初のRUN伴栃木事務局になっていた（2017年からラン伴の実行委員会は未来カフェから独立し活動している）。



「未来カフェの人たち、なんだかステキなイベントをやっているなあ」そう感じた見當会員は、何か手伝うことがあればと、軽い気持ちで参加したそうだが、気が付けば地元上三川でエリア長に自ら手を挙げていた。

ちなみに「Tochigi未来カフェ」とは、栃木県の地域福祉の向上を目指し、専門職だけではなく多業種が連携し、福祉の裾野を広げるためのコミュニティだ。（Tochigi未来カフェで検索）(<https://xn--tochigi-2r4f9a99a1312ciua.com/>)

2019年のRUN伴のテーマは『Connecting the dots！（点と点をつなぐ）』だが、初参加から3年「私もRUN伴に参加することがなければ、絶対に出会わなかったであろう人たちと出会うことができ、そこからいろいろな人との繋がりが生まれています」と語り、一つ一つの出会いの「点」を繋ぐことで、それが線になり、やがて形になっていくことの大切さを気付かせてくれた。

単なる認知症の啓発イベントではなく、人と人との繋がりを密にして広めていき「誰もが安心して暮らせる街づくり」をすることがRUN伴の目指すところだそう。

独立開業者の柔整師は、ともすれば社会資源としての繋がりが薄くなりがちだ。見當会員のように、いろいろな人たちとの繋がりを持つことは、これからの柔整師にとって必要なことだろう。見當会員にはこれからも続けていってほしいと思う。

通信員 小野塚和史

小山支部

厳しい現状を談議の花で心新たに

11月24日、令和元年として初めての小山支部秋季総会および懇親会が、小山市のダイニングキッチン彩華にて開催された。

来賓の片岡会長は、現在の業界全体の状況や審査会の動向などを伝えた上で「厳しい環境の中にも当県では各関係機関とは良好な関係を築いている」ことを強調した。



塚原保険部長からは、療養費請求に関して正しい請求の注意点と施術管理者要件などについて詳しく説明があり、私たちとしても、日頃から保険Q&Aを熟知しておく必要性を強く感じた。

総会後の懇親会には、来賓として五十嵐清県議会議長、佐藤勉衆議院議員代理で秘書の武氏の出席があり、お二人からは当会との親密な関係を交えながら、心温まる内容のあいさつをいただいた。同じく来賓の矢尾板のクリニック矢尾板勤院長から、小山地区での交通事故などの現状を含めた丁寧な話をしていただいた。

その後も来賓の方々には、多忙の中でも各テーブルを回り、会員との交流を図っていただき、その姿に感謝の気持ちと同時に私たち支部会員も頑張らなければという思いを強くし、なごやかに終了した。

なお、空席となっていた当支部顧問には下野市選出の高山和典県議に就任していただいた。

通信員 菊池和則

ニューフェイス

①支部名 ②生年月日 ③施術所名
④施術所住所 ⑤TEL ⑥出身校
⑦入会年月日 ⑧趣味 ⑨抱負

前野 健治 まえの けんじ

①宇都宮支部 ②平成元年4月12日
③元気の源整骨院 ④〒321-0912
宇都宮市石井町3373-16 ⑤028-666-6416
⑥さいたま柔整専門学校（平成24年度卒業）
⑦令和元年11月26日 ⑧野球
⑨地域の皆様のために一生懸命頑張ります。



2020 (令和 2 年)

行事予定

※定例診療日は第1・第3日曜日の
10:00~12:00を基本としますが、
諸般の都合により、日時・スタッフ
等が変更となる場合があります。
※定例診療の受付は9:30~11:30

1月

- 6日(月) 仕事始め
- 8日(水) 13:30 新年あいさつ回り
- 10日(金) 療養費支給申請書締切日
- 12日(日) 10:00 定例診療 [とちのきクリニック] 飯島医師・野澤・鈴木・小林
- 15日(水) 16:00 監事会 [当会館]
- 18:00 監査報告会 [当会館]
- 20:30 とちのき2月号編集会議 [当会館] 小森・小野塚・丸山
- 17日(金) 20:00 理事会(支部長参加) [当会館]
- 18日(土) 15:00 予備点検 [当会館] 理事・監事
- 19日(日) 10:00 定例診療 [とちのきクリニック] 須田医師・滝田・星野・大木
- 21日(火) 14:00 労災審査 [当会館]
- 22日(水) 20:30 とちのき校正会議 [当会館] 小森・丸山・古内
- 24日(金) 10:00 協会けんぽ審査会 [とちぎ福祉プラザ]
- 10:00 国保審査会 [国保連合会902号室]
- 26日(日) 栃木県郡市町対抗駅伝競走大会 [栃木市総合運動公園]
- 30日(木) 20:30 笹沼先生との勉強会 [当会館]

2月

- 2日(日) 10:00 定例診療 [とちのきクリニック] 飯島医師・高野・大井・小林
- 10日(月) 療養費支給申請書締切日
- 13日(木) 20:30 理事会 [当会館]
- 14日(金) 20:30 とちのき3月号編集会議 [当会館] 小森・古内・三上
- 15日(土) 15:00 予備点検 [当会館] 理事・監事・支部長
- 16日(日) 10:00 定例診療 [とちのきクリニック] 須田医師・野澤・高橋・大木
- 18日(火) 14:00 労災審査 [当会館]
- 20日(木) 20:30 とちのき校正会議 [当会館] 小森・三上・大関
- 21日(金) 10:00 協会けんぽ審査会 [とちぎ福祉プラザ]
- 25日(火) 10:00 国保審査会 [国保連合会902号室]

(変更や追加などはホームページをご覧ください)



年末・年始の緊急連絡先

田代副会長(総務部長) ☎080-3443-8184
事務局(鷹簗係長) ☎080-3443-5109

information

お知らせ

会員数

令和元年12月1日現在

404名

施術所数

383院



会員の異動状況報告

- ・宇柔整238 前野健治 元気の源整骨院
〒321-0912 宇都宮市石井町3373-16
☎028-666-6416 令和元年11月26日 入会
- ・那柔整9 露久保政美 露久保接骨院
〒324-0613 那須郡那珂川町馬頭1350
☎0287-92-2094 令和元年11月7日 退会
- ・宇柔整199 番場 稔 元気の源整骨院
〒321-0912 宇都宮市石井町3373-16
☎028-666-6416 令和元年11月30日 退会
- ・宇柔整199 番場 稔→宇柔整238 前野健治
元気の源整骨院
〒321-0912 宇都宮市石井町3373-16
☎028-666-6416 令和元年12月1日 院主変更
- ・那柔整9 露久保政美 露久保接骨院
〒324-0613 那須郡那珂川町馬頭1350
☎0287-92-2094 令和元年11月7日 閉院

川 柳

塩谷支部 船橋 仁和

ミッキーの干支に期待をする令和
初夢が正夢となる宝くじ
一年の計ギャンブルで確かめる



編集後記

ゴ～ン…ゴ～ン…午前0時、あけましておめでとうございます。この瞬間に12月は遠くにかすんでいき、新しい気分になるのはどうしてなのでしょうね？昔の人はうまい仕組みを考えたものだなあと感じます。

そして、去年の失敗とかできなかったことも、たいした反省もなく忘れてしまい、今年は何かできそうな期待感まで持ってしまいます。

とは言っても毎年、それだけで終わっているので、今年こそ私はやりたいことを書き出し、最低3つは達成できるように頑張ります。

ただし、相田みつお曰く「そのうち そのうち べんか いしながら 日がくれる」なんてならないように…

今年こそ、今年こそ！！皆さんも目標に向かって頑張ってください！

きくりんぼう